

平成30年度 長野市放課後子ども総合プラン事業自己評価 集計結果

1 実施状況

対象：90施設 実施：90施設 （実施率100%）

2 集計結果

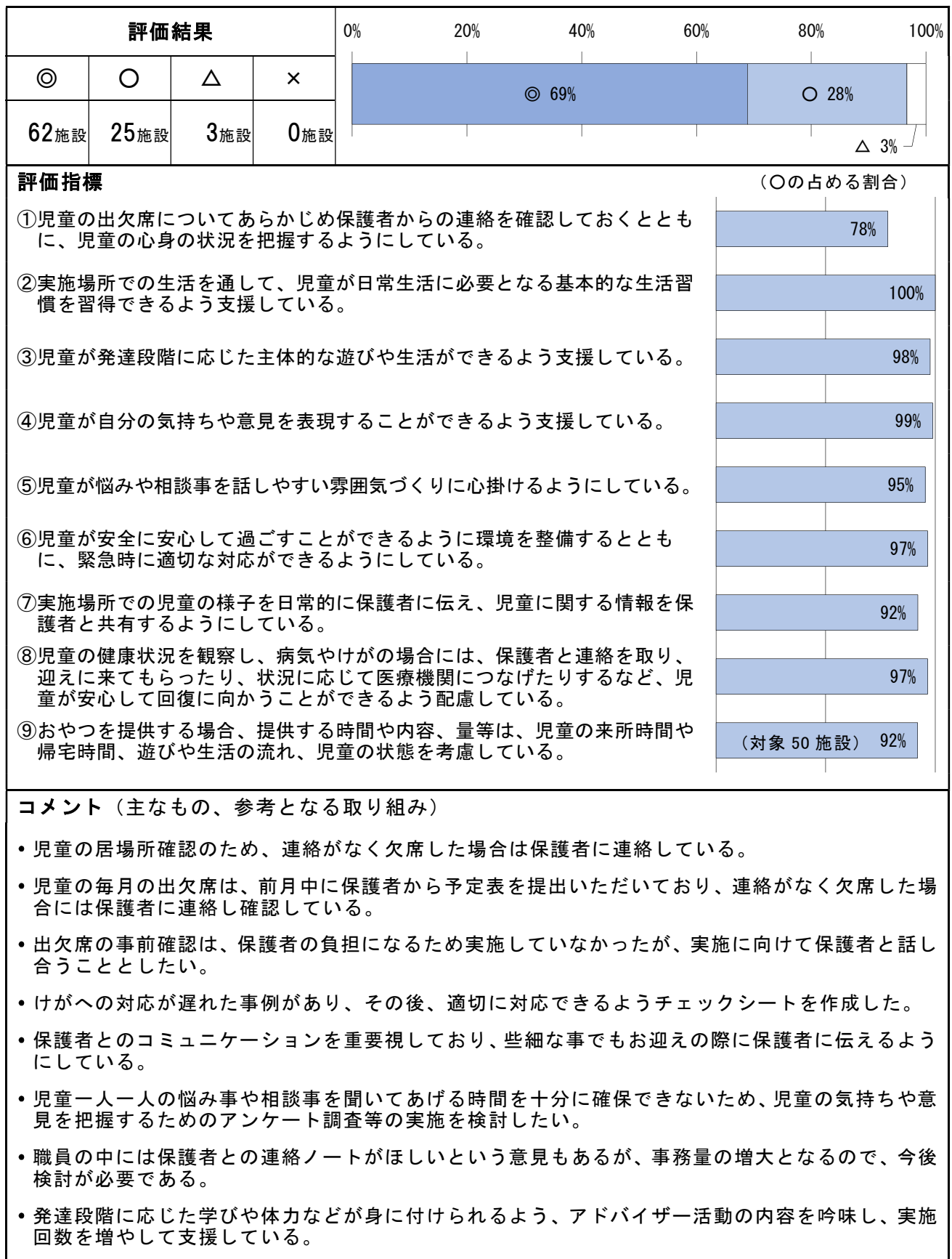
〈評価項目1〉人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

評価結果				0%	20%	40%	60%	80%	100%
◎	○	△	×	<p>◎ 100% (○、△、×は各0%)</p>					
90施設	0施設	0施設	0施設						
評価指標				(○の占める割合)					
①児童及びその家族の人権に十分配慮し、一人一人の人格を尊重している。				100%					
②児童及びその家族の国籍、信条又は社会的身分等によって、差別的な扱いをしていない。				100%					
③児童虐待等、児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。				100%					
④児童及びその家族の個人情報を適切に取扱っている。また、正当な理由がなく、業務上知り得た児童及びその家族の秘密を外部に漏らさないよう配慮している。				100%					
コメント（主なもの、参考となる取り組み）									
<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の人権を尊重して接することができるよう、職員全員によるミーティングにおいて気を付けている。 常に問題意識を持ち問題や不安が発生した場合は、職員でその共有化を図り、迅速に対処できるよう意識している。 使ってはいけない言葉を掲示し、差別等がないようにしている。 施設独自の秘密保持マニュアルや誓約書の書式等を作成するようにしたい。 施設だよりなどに安易に児童の顔写真を載せないようにしている。 個人情報は、鍵の掛かるキャビネットに保管し、人目に触れないようにしている。 個人情報は、必要最小限のものを職員同士で共有することとし、厳しく管理している。 児童同士のトラブルを解決するため個人情報（電話番号等）を伝える必要がある時は、保護者に伝えて良いかを確認してから対応している。 外国籍の保護者に対しては、施設だよりを渡す際に口頭で内容を分かりやすく伝えるようにしている。 									

〈評価項目2〉運営管理に関すること

評価結果				0%	20%	40%	60%	80%	100%
◎	○	△	×						
48施設	34施設	8施設	0施設						
評価指標				(○の占める割合)					
①実施日は、1年につき250日以上を原則とし、保護者の就労状況、学校の授業日、その他地域の実情を考慮して設定している。				98%					
②実施時間の延長については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。				90%					
③運営規程を定め、運営規程に沿った事業運営を行っている。				95%					
④職員は、自己研さんに励み、児童の健全な育成を図るために必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。また、職員間で必要な知識及び技能の共有を図っている。				97%					
⑤運営内容向上のため、提供する支援の内容等について自己評価を行っている。				78% ※1					
⑥自己評価の結果は、掲示板への掲示や通信（施設だより等）への掲載などにより公表に努めている。				68% ※1					
⑦要望・苦情を受け付ける窓口を設置し、周知している。				83%					
⑧苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、誠意ある解決を図っている。				100%					
⑨おやつ提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。				85%					
⑩おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。				(対象 50 施設) 98%					
コメント（主なもの、参考となる取り組み）									
<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果により、朝の時間を延長して実施するようになった。 保護者の要望に応じて、土曜日を全日開館するようになった。 職員研修等に参加しているが、多様化する児童を取り巻く環境への対応には不十分であるため、引き続き自己研さんに努めたい。 研修には積極的に参加してスキルアップを図り、学習した内容はミーティング等により職員間で共有している。 保護者から出た要望や意見は、その日のうちに職員間で話し合い、対応している。 自己評価の結果は、今後施設だよりで公表し、要望・苦情を更に受け止めやすい環境づくりに努めたい。 保護者とのコミュニケーションは、お迎え時を有効に活用し、要望、苦情等を積極的に引き出すよう努力している。 苦情の受付箱を設置し、職員と保護者との関係づくりに配慮している。 									
※1 今回の自己評価の実施と結果の公表は、評価に含めないものとする施設があった。									

〈評価項目3〉育成支援の内容に関すること



〈評価項目4〉配慮を要する児童への対応に関すること

評価結果				0%	20%	40%	60%	80%	100%
◎	○	△	×						
56施設	26施設	8施設	0施設						

評価指標

(○の占める割合)

①児童同士が生活を通して共に成長できるよう、障害のある児童についても受入れに努めている。	100%
②障害のある児童の受入れの判断は、児童や保護者と面談の機会を持つなどして、児童の健康状態、発達の状況、家族の状況、保護者の意向等を個別に把握し、適切に行っている。	90%
③障害のある児童の育成支援については、個々の状況に応じて、関係機関及び専門家と連携を図っている。	76% ※2
④障害のある児童の育成支援が適切に図られるように、児童の状況に応じた職員の配置や加配に努めている。	92%
⑤児童虐待が疑われる場合には、市又は児童相談所に速やかに通告するようにしている。また、学校及び関係機関と連携して適切に対応している。	95%
⑥児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめ等の問題が生じたときには速やかに学校に連絡し、保護者、学校、関係機関と連携して適切に対応している。	94%

コメント（主なもの、参考となる取り組み）

- 障害のある児童の保護者とは密に連絡を取り合っている。また、加配をして安全に過ごせるよう努めている。
- 障害のある児童が利用している他の施設に見学に行き、情報を共有している。
- 講演会や研修会で得たことを職員同士で話し合っている。また、問題を抱えている児童については、職員会議などで対応方法を相談している。
- 加配対象の児童については、関係機関、医師、家庭と連携を図り対応している。
- 特性のある児童や配慮が必要な児童が多いと感じているところであり、学校との連携や保護者との懇談を通じて、一人一人個別の対応を心掛けている。
- 学校とは、支援会議等を通じて連携を図っているところである。また、連絡会を定期的を実施したいと考えている。
- 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮し、いじめの実態や兆しが見られたときは、速やかに学校・保護者と連携して対応している。
- 配慮が必要な児童が施設での過ごし方に戸惑わないよう、担当職員を決めるなどして対応している。

※2 「専門家と連携を必要とする児童はいない」「関係機関との連携は保護者の理解がないと難しい」等のコメントがあった。

〈評価項目5〉多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

評価結果				0%	20%	40%	60%	80%	100%
◎	○	△	×						
49施設	28施設	13施設	0施設						
評価指標				(○の占める割合)					
①児童に多様な体験活動、交流等の機会を定期的かつ継続的に提供している。				98%					
②小学校区における事業の円滑な実施を図るため、運営委員会、学校関係者、地域組織（母親クラブ等）、地域住民、保護者等との総合的な調整に努めている。				90%					
③地域社会全体で児童を見守り育む機運を高めるため、地域ボランティアの掘り起しと、活用に努めている。				67% ※3					
④活動の内容は特定のものに偏ることのないよう配慮し、児童の要望を反映するように努めている。				88%					
コメント（主なもの、参考となる取り組み）									
<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション研修に参加したり、新しいアドバイザーを発掘したりして、多様な体験活動や交流ができるようにしている。 アドバイザー活動は、活動時の見守りのしやすい点など、運営面から選定することがある。児童の要望を反映できるよう今後の課題としたい。 継続的に活動してもらっている特定の地域ボランティアはあるが、掘り起しについては今後の課題としたい。 地域のデイサービス施設との年1回の交流から、手作りの雑巾を児童にプレゼントしに出かけてきてもらう活動へと発展している。 地域ボランティアによる交通安全や防犯教室等を通して、児童が安全に生活できるよう指導している。 地域公民館との連携協力により、子ども講座（料理教室、物づくり教室、スポーツ教室など）を開催している。 保護者（母親クラブ）や地域と連携し、流しそうめんや餅つき、畑作りなどに取り組んでいる。 地区の文化祭等に参加し、児童の作品を展示して地域の人たちに活動内容を紹介している。 									
※3 「地域ボランティアを活用しているが、掘り起しは難しい」「地域ボランティアの掘り起しは不十分」等のコメントがあった。									

〈評価項目6〉安全管理に関すること

評価結果				0%	20%	40%	60%	80%	100%
◎	○	△	×						
51施設	31施設	8施設	0施設						

評価指標

(○の占める割合)

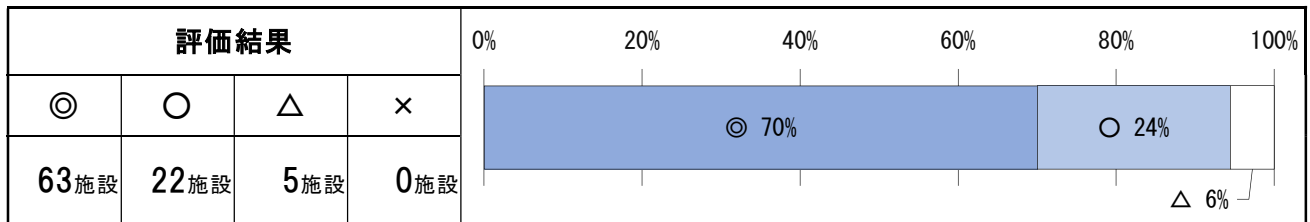
①児童の手洗いやうがいを行なうなど、日常の衛生管理に努めている。	100%
②感染症の発生状況について情報を収集し、感染症の発生や疑いがある場合には、二次感染を防止するための措置を講じるようにしている。	100%
③実施場所及びその周辺の設備等の安全性について日常的に点検している。	97%
④事故及びけがの防止に向けた対策や発生時の対応に備えた訓練又は研修を実施している。	70% ※4
⑤事故及びけがが発生した場合には、速やかに適切な処置を行い、速やかに保護者に連絡するようにしている。	100%
⑥災害等が発生した場合に迅速かつ適切に対応できるように定期的に訓練を実施している。	81%
⑦市及び学校等関係者と連携を図り、地域における児童の安全確保及び安全点検に関する情報の共有に努めている。	90%
⑧災害等が発生した際に保護者及び市、学校等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備している。	89%
⑨おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。	(対象 50 施設) 100%

コメント（主なもの、参考となる取り組み）

- ・インフルエンザの流行期には、学校と連携し、学級閉鎖等の現状把握に努めている。
- ・インフルエンザの流行期には、全職員のマスク着用と手洗いを徹底し、予防に努めている。
- ・手洗いやうがいは、日頃から励行しており、施設だよりでも家庭で実践するよう周知している。
- ・事故やけがに備え、緊急連絡網、病院・医院の連絡先、救急車要請の要領などを掲示している。
- ・安全管理に関して職員全員が問題意識を持ち、ヒヤリハット事例を共有している。
- ・事故やけが等が発生した時は、ミーティングをして再発防止のため対応を話し合い、共有している。
- ・けが防止に向けた訓練や研修を実施しているが、日常の活動の中で危険な動作や言動があったら注意をし、事故の発生を未然に防止するようにしている。
- ・事故が発生した場合には対応策や解決策を検討し、職員に周知しているが、定期的な訓練の実施には至っていない。職員数が少ない時間帯での対応や訓練は重要であると考えている。
- ・救急車の要請や災害時マニュアルを作成し、万一来に備え、自然災害を想定して訓練を行っている。
- ・避難訓練を年3回（火災、地震、土砂）実施した。

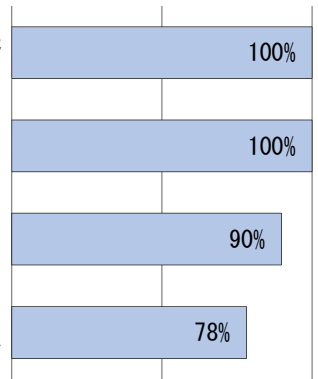
※4 「けがの防止や事故発生時の対応については日頃から打ち合わせているが、訓練は行っていない」「事故及びけがの防止に向けた具体的な訓練は行っていない」等のコメントがあった。

〈評価項目7〉保護者、学校及び地域との連携協力に関すること



評価指標

- (○の占める割合)
- ①保護者との信頼関係を築くよう努めるとともに、子育てのこと等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。
 - ②保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、対応している。
 - ③児童の毎日の生活が学校、実施場所、家庭の間で連続性をもって円滑になるよう、学校と情報交換を行い、連携を図っている。
 - ④児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、運営委員会及び民生委員・児童委員、地域組織（母親クラブ等）、児童に関わる関係機関等との情報交換、情報共有及び相互交流を行い、連携を図っている。



コメント（主なもの、参考となる取り組み）

- お迎えの時にできるだけ多く保護者に声掛けをして子どもの様子を伝え、コミュニケーションが円滑に取れるよう努めている。
- 保護者の悩みや不安の相談に乗る必要性を強く感じるので、児童のお迎えの機会等を利用して積極的に懇談を行っている。
- 小学校との情報交換や情報の共有をその都度行える体制を整えている。また、学校との年2回の懇談会を開催して連携強化を図っている。
- 保護者との信頼関係を築くためには、職場の雰囲気が大切であると考えており、明るく、風通しの良い職場環境づくりを心掛けている。
- 保護者とはお迎え時の短い時間を利用して伝え合いをしている。納得できない時は、時間を設定して、相互理解を深められるように努力している。今後もできる限り継続し、子どもたちのために連携を図っていきたい。
- 地区の評議会等への参加により関係機関との情報交換を行っているが、補助員には詳しく伝達していなかったため、周知徹底を図りたい。
- 各種団体との関わりの中で、児童が地域の中で健やかに育つことができるよう、積極的な連携の仕方を考えていく必要がある。今後の課題としたい。